



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ヨコオ

コード番号 6800 URL <http://www.yokowo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長

(氏名) 徳間 孝之

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長

(氏名) 横尾 健司

TEL 03-3916-3111

四半期報告書提出予定日 平成24年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	20,258	△3.2	622	△51.6	309	△65.7	△20	—
23年3月期第3四半期	20,932	9.6	1,285	43.1	903	25.3	632	38.3

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 △346百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 △9百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△1.00	—
23年3月期第3四半期	31.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	22,265	14,161	63.6
23年3月期	21,322	14,748	69.2

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 14,161百万円 23年3月期 14,748百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
24年3月期	—	3.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

期末配当予想につきましては、現時点では未定であります。

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,500	1.4	1,050	△19.6	670	△29.8	250	△57.4	12.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)： 無
新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	20,849,878 株	23年3月期	20,849,878 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	844,539 株	23年3月期	844,431 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	20,005,355 株	23年3月期3Q	20,005,681 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報.....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報.....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項.....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	3
(4) 追加情報.....	4
3. 四半期連結財務諸表等.....	5
(1) 四半期連結貸借対照表.....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記.....	9
(4) セグメント情報等.....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新興国経済の成長鈍化に伴って減速感が強まっており、その最大の要因である欧州ソブリンリスクは、危機的事態の回避に向けて正念場を迎えております。

わが国におきましても、東日本大震災直後に比べ景況感が改善しているものの、厳しい円高水準などのいわゆる「六重苦」や、サプライチェーン混乱による供給停滞などから、日系企業の世界市場におけるポジションの低下傾向が危惧されております。

当社グループの主要市場である自動車市場、半導体製造・検査市場、携帯電話市場におきましては、新興国市場の拡大余地はまだまだ大きく、有望である一方、欧州ソブリンリスクの影響で世界的に需要が減退する可能性が高まっております。

このような状況の中、当社グループは、車載通信機器事業におきましては、東日本大震災やタイの大洪水による受注の著しい減少と回復への対応に注力する一方、新興国市場における車載通信機器事業の拡大を主な目的とするベトナム生産子会社を設立し、2012年8月の本格稼働に向けて準備を進めております。また、国内外顧客の海外生産増加が続く回路検査用コネクタ事業及びファインコネクタ事業におきましては、海外市場でのさらなる拡販に注力いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、無線通信機器セグメントが増収となったものの、東日本大震災及びタイの大洪水の影響による車載通信機器セグメントの大幅な減収などにより、202億5千8百万円（前年同期比△3.2%）と、前年同期比で減収となりました。営業損益につきましては、車載通信機器セグメントでの大幅減収に伴う減益、製品構成変化による利益率低下、中国における労務費増加などにより、6億2千2百万円の利益（前年同期比△51.6%）と、前年同期比で減益となりました。経常損益につきましては、円高進行に伴う為替差損の拡大などにより、3億9百万円の利益（前年同期比△65.7%）と、前年同期比で大幅な減益となりました。四半期純損益につきましては、株価の大幅下落に伴う投資有価証券評価損1億8千7百万円、固定資産除却損4千7百万円など特別損失2億7千2百万円を計上した結果、2千万円の損失（前年同期比6億5千2百万円の減少）と、前年同期を大幅に下回りました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

<車載通信機器>

当セグメントの主要市場である自動車市場は、中国・インド・ブラジルなど新興国市場の成長ペースが鈍化しつつあるものの、着実に拡大を続けております。日本市場におきましては、日系自動車メーカーが東日本大震災やタイの大洪水の影響によるサプライチェーンの混乱から一時は大幅な減産を余儀なくされましたが、挽回するべく足元では急速に回復しつつあります。

このような状況の中、当社グループの主力製品であるマイクロアンテナをはじめとする自動車メーカー向け製品の販売は、第1四半期での急減後、第2四半期に急回復したものの、第3四半期はタイの大洪水の影響により第2四半期から横ばいとなった結果、前年同期の9割水準にとどまりました。一方、国内向けフィルムアンテナの販売は、地デジ化対応需要により、例年より高い水準で推移し、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は113億7千1百万円（前年同期比△9.7%）と、前年同期比で減収となりました。セグメント損益につきましては、1億5千9百万円の損失（前年同期比4億8千万円の減少）となりました。

<回路検査用コネクタ>

当セグメントの主要市場である半導体製造・検査市場は、スマートフォンの急速な普及に伴う半導体需要急増の一方で、パソコン販売の低迷による在庫過剰からDRAM価格が下落を続けており、半導体メーカーやファウンドリー（半導体製造受託会社）の業績にも影を落としている状況にあります。

このような状況の中、当社グループは、海外大手顧客を中心に積極的な拡販活動を展開いたしました。主力製品であるIC検査用BGAソケット以外の製品につきましては、戦略製品の販売増などにより前年同期を上回ったものの、IC検査用BGAソケットは、東日本大震災の影響による主要顧客の減産や生産調整などにより前年同期を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は38億1千2百万円（前年同期比△5.1%）と、前年同期比で減収となりました。セグメント損益につきましては、3億3千3百万円の利益（前年同期比△44.9%）となりました。

<無線通信機器>

当セグメントの主要市場である携帯電話市場は、スマートフォンの急速な普及に牽引され、さらに成長を続けるものと見られますが、世界大手セットメーカー間の競争は激化の一途をたどっております。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするファインコネクタ事業におきましては、スマートフォンやPOS端末機等での採用が拡大しましたが、一部海外大手顧客の販売不振などにより、売

上高は前年同期を下回りました。

携帯電話機向けアンテナ事業につきましては、海外大手顧客の主力機種への採用によりセルラーメイン内蔵アンテナの受注が大きく伸長し、売上高は前年同期を大幅に上回りました。

当分野に含めておりますメディカル・デバイス事業につきましては、ガイドワイヤ用コイル、マーカリング等主力製品の堅調な販売増加に加え、ガイドワイヤユニット・カテーテルユニットの組立加工の受注が順調に増加しており、売上高は前年同期を大幅に上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は50億7千4百万円（前年同期比+17.5%）と、前年同期比で大幅な増収となりました。セグメント損益につきましては、3億3千6百万円の利益（前年同期比△23.9%）となりました。

（事業セグメント別連結売上高）

（単位：百万円、%）

	前第3四半期 連結累計期間 平成22年4月 ～平成22年12月	当第3四半期 連結累計期間 平成23年4月 ～平成23年12月	前年同期比
	売上高	売上高	増減率
車載通信機器	12,596	11,371	△9.7
回路検査用コネクタ	4,019	3,812	△5.1
無線通信機器	4,316	5,074	+17.5
合 計	20,932	20,258	△3.2

（2）連結財政状態に関する定性的情報

（総資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、売上債権増加6億5千8百万円、たな卸資産増加5億8千2百万円などの増加要因がありましたが、現金及び預金減少4億1千8百万円などの減少要因により、222億6千5百万円（前連結会計年度末比9億4千3百万円の増加）となりました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は、仕入債務増加7億8千7百万円、短期借入金増加7億円などの増加要因により、81億3百万円（前連結会計年度末比15億2千9百万円の増加）となりました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純損失2千万円の計上、その他有価証券評価差額金4千4百万円減少、為替換算調整勘定2億8千2百万円減少、前連結会計年度に係る期末配当金及び中間配当による支払2億4千万円などの減少要因により、141億6千1百万円（前連結会計年度末比5億8千6百万円の減少）となりました。

（自己資本比率）

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は63.6%（前連結会計年度末比△5.6%）となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

欧州ソブリンリスクや新興国経済減速に伴う当社主要市場での需要減退懸念、歴史的な円高水準の定着など、当社グループの経営環境は依然として非常に厳しい状況が続いておりますが、前提条件が概ね想定範囲内で推移していることから、前回（平成23年11月11日）公表の通期業績予想値は変更いたしません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1 四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,335,151	3,916,445
受取手形及び売掛金	5,590,625	6,248,906
商品及び製品	1,210,445	1,561,043
仕掛品	454,131	597,749
原材料及び貯蔵品	1,087,617	1,176,234
その他	812,875	910,252
貸倒引当金	△3,537	△1,846
流動資産合計	13,487,309	14,408,786
固定資産		
有形固定資産	5,161,940	5,153,901
無形固定資産		
その他	534,347	644,141
無形固定資産合計	534,347	644,141
投資その他の資産	2,138,797	2,058,661
固定資産合計	7,835,085	7,856,704
資産合計	21,322,394	22,265,490
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,076,961	3,864,607
短期借入金	—	700,000
1年内返済予定の長期借入金	400,000	600,000
未払法人税等	187,881	42,104
賞与引当金	309,184	113,550
その他	1,152,383	1,633,663
流動負債合計	5,126,411	6,953,925
固定負債		
長期借入金	200,000	—
退職給付引当金	303,685	314,004
その他	943,467	835,569
固定負債合計	1,447,153	1,149,573
負債合計	6,573,565	8,103,499

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,996,269	3,996,269
資本剰余金	3,981,928	3,981,928
利益剰余金	8,607,389	8,347,227
自己株式	△991,041	△991,103
株主資本合計	15,594,546	15,334,321
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	97,433	52,841
為替換算調整勘定	△943,150	△1,225,171
その他の包括利益累計額合計	△845,716	△1,172,329
純資産合計	14,748,829	14,161,991
負債純資産合計	21,322,394	22,265,490

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	20,932,347	20,258,698
売上原価	16,116,968	15,879,456
売上総利益	4,815,378	4,379,241
販売費及び一般管理費	3,529,455	3,756,933
営業利益	1,285,923	622,308
営業外収益		
受取利息	10,323	6,055
受取配当金	36,445	39,116
その他	22,147	31,035
営業外収益合計	68,916	76,206
営業外費用		
支払利息	43,588	32,228
為替差損	387,499	322,254
その他	20,735	34,466
営業外費用合計	451,823	388,948
経常利益	903,016	309,566
特別利益		
固定資産売却益	702	1,027
投資有価証券割当益	14,678	—
貸倒引当金戻入額	2,247	—
保険契約転換差益	5,054	—
特別利益合計	22,682	1,027
特別損失		
固定資産売却損	6,869	2,703
固定資産除却損	24,853	47,723
投資有価証券評価損	—	187,907
減損損失	5,000	—
その他	—	34,372
特別損失合計	36,723	272,706
税金等調整前四半期純利益	888,975	37,887
法人税、住民税及び事業税	364,722	83,896
法人税等調整額	△108,630	△25,912
法人税等合計	256,092	57,984
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	632,883	△20,097
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	632,883	△20,097

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	632,883	△20,097
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△85,642	△44,591
為替換算調整勘定	△556,903	△282,021
その他の包括利益合計	△642,546	△326,613
四半期包括利益	△9,663	△346,710
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△9,663	△346,710
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,596,224	4,019,338	4,316,784	20,932,347	—	20,932,347
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	172,281	—	172,281	△172,281	—
計	12,596,224	4,191,619	4,316,784	21,104,628	△172,281	20,932,347
セグメント利益	320,464	604,792	442,575	1,367,833	△81,910	1,285,923

(注) セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っています。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,367,833
たな卸資産未実現利益調整額	△36,489
たな卸資産評価減調整額	△24,673
その他調整額	△20,746
四半期連結損益計算書の営業利益	1,285,923

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,371,500	3,812,993	5,074,203	20,258,698	—	20,258,698
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	130,617	—	130,617	△130,617	—
計	11,371,500	3,943,610	5,074,203	20,389,315	△130,617	20,258,698
セグメント利益又は損失 (△)	△159,733	333,500	336,923	510,690	111,618	622,308

(注) セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っています。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	510,690
たな卸資産未実現利益調整額	29,178
たな卸資産評価減調整額	17,375
その他調整額	65,063
四半期連結損益計算書の営業利益	622,308

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。